

THE SAUL BELLOW SOCIETY OF JAPAN
NEWSLETTER

APRIL 2016

SBSJ

Vol.28

発行：会長 町田哲司
代表理事 鈴木元子
日本ソール・ベロー協会本部
573-1001 枚方市中宮東之町 16-1 関西外国語大学 町田研究室内
TEL 072-805-2801
E-mail machida@kansai.ac.jp
ホームページ URL <http://www.onyx.dti.ne.jp/~bellow/>

【第28回日本ソール・ベロー協会大会のお知らせ】

日時：9月6日(火)午後1:45～5:30 (1:30受付開始)

場所：青山学院大学・青山キャンパス

総研ビル7階第12会議室

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL 03-3409-8111(代)

交通機関：JR「渋谷」駅下車、青山通りを国連大学方面に徒歩10分／千代田線、半蔵門線、
「表参道」駅下車、B1、B3の出口、徒歩5分

《プログラム》

- ①開会の辞 町田哲司 (会長・関西外国語大学)
- ②総会 司会：鈴木元子 (代表理事・静岡文化芸術大学)
- ③研究発表：井上亜紗 (日本女子大学・院生)
「Herzog と記憶の問題」(仮題)
司会：大場昌子 (日本女子大学)
- ④フォーラム・ディスカッション (途中休憩を含む)
統一テーマ「Saul Bellow の後期作品を読む」

発表予定者と対象作品：

池田肇子 (『銀の皿』『どんな日だった?』) 岩橋浩幸 (『いとこたち』)
町田哲司 (『心の痛みで死ぬ人たち』) 大場昌子 (『盗み』)
幸山智子 (『ベラローザ・コネクション』) 佐川和茂 (『ベラローザ・コネクション』)
伊達雅彦 (『アクチュアル』) 杉澤伶維子 (『ラヴェルスタイン』)
鈴木元子 (『ラヴェルスタイン』)

*懇親会 (午後6:00～7:30) (会費：5000円)

会場：「はながこい」(渋谷1-1-8・B1) TEL. 03-3498-3228

*理事会を12:30より開きます。

【2015年度会員ベロー関係活動報告】(2015年4月1日～2016年3月31日)

《著書》

◎池田肇子『二十世紀のラビーソール・ベロー研究』(開文社出版、2015年5月2日)

Contents

第1章

1-1 学士論文	3
1-2 修士論文	30
1-3 The Writers in Their Early Years—Ernest Hemingway and Saul Bellow—	69

第2章

2-1 Hard-boiledness in Saul Bellow's <i>Dangling Man</i>	85
2-2 Saul Bellow: <i>The Victim</i> —作家の選択—	93
2-3 Saul Bellow and Hemingway's Hard-boiledness	113
2-4 Saul Bellow: <i>The Victim</i> —都市の役割—	116
2-5 Saul Bellow: "A Silver Dish"—人間の生のために—	133
2-6 Narrative Devices in Saul Bellow's "A Silver Dish"	147
2-7 Human Relations in Saul Bellow's <i>Seize the Day</i>	156
2-8 <i>Seize the Day</i> における水のイメージ	163
2-9 Saul Bellow: <i>A Theft</i> —「盗み」がもたらしたもの—	180
2-10 Hattie's Decision in "Leaving the Yellow House"	195
2-11 "What Kind of Day Did You Have?"における Katrina ^{ねがい} の希求	203
2-12 ソール・ベローと階級	218
2-13 Bellow's Heroines	232
2-14 An Ending with Progression	249
2-15 Saul Bellow におけるシカゴへの回帰の意味	257
2-16 <i>Herzog</i> —知識人の内なる冒険—	277
2-17 Saul Bellow and the Twentieth Century	293
2-18 Experiencing Africa in Joseph Conrad's <i>Heart of Darkness</i> and Saul Bellow's <i>Henderson the Rain King</i>	308
2-19 Middle Age Crisis in <i>Herzog</i>	321
2-20 <i>Herzog</i> : An Intellectual Adventure	333
2-21 二つの親子関係—「銀の皿」と『どんな日だった?』—	350
2-22 Two Family Relations—"A Silver Dish" and <i>What Kind of Day Did You Have?</i> —	365
2-23 Saul Bellow が描いたポーランド— <i>Mr. Sammler's Planet</i> と <i>The Bellarosa Connection</i> —	382
2-24 Saul Bellow's <i>Mr. Sammler's Planet</i> : Sammler の役割	399

第3章	
3-1 Saul Bellow: <i>It All Adds Up</i> より (1)	417
3-2 Saul Bellow: <i>It All Adds Up</i> より (2)	450
3-3 Saul Bellow: <i>It All Adds Up</i> より (3)	487
3-4 Saul Bellow: <i>It All Adds Up</i> より (4)	522
3-5 Saul Bellow: <i>It All Adds Up</i> より (5)	560
第4章	
4-1 アリス・アダムズとミニマリズム	585
4-2 Supple Insight: A Compensation from Daughter	599
4-3 Alice Adams とハイク	607
4-4 ヒロインたちの年齢意識	623
4-5 <i>The Education of Little Tree</i> —伝承される教えと環境学習—	637
初出一覧	659
あとがき	667

◎渡邊克昭『楽園に死す—アメリカ的想像力と〈死〉のアポリア』(大阪大学出版会、2016年1月29日)

目次

はじめに 〈死〉をめぐるアポリア—「共和国の亡霊」	1
序章 開かない扉、届かない手紙	7
I 喪服の似合うベロー	
第一章 この〈死〉を掴め—『この日を掴め』のバルマコン、タムキン	31
第二章 老人をして死者を葬らせよ—『サムラー氏の惑星』における「盲者の記憶」	47
第三章 贈与の死、〈死〉の贈与—蘇る『フンボルトの贈り物』	67
第四章 「重ね書き」される身体—『学生部長の一二月』における喪のエクリチュール	87
II メタフィクショナルな「亡霊」の旅—バース、パワーズ、エリクソン	
第五章 「神話」仕掛けのアダム—楽園の『旅路の果て』	109
第六章 〈不死〉の迷宮にて—「夜の海の旅」から『びっくりハウスの迷い子』へ	127
第七章 複製という名の「亡霊」—〈死〉の『舞踏会へ向かう三人の農夫』	145
第八章 ホブズタウンより愛をこめて—『囚人のジレンマ』における「 ^{グラウンド・ゼロ} 爆心地」への旅	159
第九章 Zの悲劇—浮浪者の『黒い時計の旅』	181
III デリーロと「スペクタクルの日常」	
第十章 広告の詩学／死学—差異と反復の『アメリカーナ』	197

第十一章	〈死〉がメディアと交わる場所—ノイズから『ホワイト・ノイズ』へ	217
第十二章	シミュラクルの暗殺—『リプラ』の「亡霊」、オズワルド	243
第十三章	内破する未来へようこそ—九・一一・『マオⅡ』・『コークⅡ』	265
IV 逆光のアメリカン・サブライム		
第十四章	廃物のアウラと世紀末—封じ込められざる冷戦の『アンダーワールド』	293
第十五章	蘇る標的—「撃つ／写す」の『アンダーワールド』	317
第十六章	敗北の「鬼」を抱きしめて—『アンダーワールド』における名づけのアポリア	355
V 〈死〉の時間、時間の〈死〉		
第十七章	喪の身体—『ボディ・アーティスト』における時と消滅の技法	353
第十八章	「崇高」という病—「享楽」の『コズモポリス』横断	369
第十九章	九・一一と「灰」のエクリチュール—『フォーリングマン』における“nots”の亡霊	387
第二十章	時の砂漠—惑星思考の『ポイント・オメガ』	407
終章	シネマの旅路の果て—「もの食わぬ人」における「時間イメージ」	423
結論	楽園のこちら側—〈死〉が滞留するところ	439
あとがき		455
注		461
引用・参考文献		21
索引		1

《論文》

◎鈴木元子「失われた片割れを求めて—ソール・ベローの『ラヴェルスタイン』にみる結婚観」
 広瀬佳司・佐川和茂・伊達雅彦編著『ユダヤ系文学と「結婚」』（彩流社、2015年4月15日）：113-133.

◎池田肇子「ソール・ベロー：文学性の形成—伝記資料を中心に—」『福岡女学院大学紀要・人文
 学部編』26（2016年3月）：1-16.

◎鈴木元子「Saul Bellow の *Ravelstein* にみるチックの語りの妙技」『静岡文化芸術大学研究紀
 要』16（2016年3月31日）：33-42.

《発表》

◎鈴木元子「『階級』と文化の変容—ソール・ベローの *The Actual*—」日本アメリカ文学会中部
 支部第32回大会、名城大学名駅サテライト「MAST」、2015年4月26日.

《短信》

◎町田哲司「日本ソール・ベロー協会の歩みを振り返る—ベロー生誕百年を迎えて—」『日本近代
 文学館』266（2015年7月15日）：8.

《非会員ベロー関係活動報告》

《論文》

◎ゴードン、アンドリュウ（江原雅江訳）「ハーツォグの離婚による悲しみ」広瀬佳司・佐川和茂・伊達雅彦編著『ユダヤ系文学と「結婚」』（彩流社、2015年4月15日）：93-112.

《発表》

◎Sak, Taras Alexander. “Failure, American Style: *Herzog, A Serious Man, Greenberg*” 日本アメリカ文学学会第54回全国大会、京都大学、2015年10月10日.

《書評》

◎三杉圭子「鈴木元子著『ソール・ベローと「階級」』『ユダヤ・イスラエル研究』第28号（日本ユダヤ学会、2014年12月1日）：130.

《海外ベロー関係文献》

◎Leader, Zachary. *The Life of Saul Bellow: To Fame and Fortune, 1915-1964*. New York: Alfred A. Knopf, 2015.

Contents

List of Illustrations	ix
Introduction: Bellow and Biography	3
1. Russia/Abraham	21
2. Canada/Liza	51
3. Chicago/Maury	82
4. Tuley	119
5. Politics/Anthropology	164
6. Anita/Dangling	210
7. New York	252
8. Minneapolis	294
9. Paris	340
10. Princeton/Delmore	381
11. <i>Augie</i> /Bard/Sasha	431
12. Pyramid Lake	482
13. Betrayal	537
14. Susan/ <i>Herzog</i>	589
<i>Acknowledgments</i>	653

<i>A Note on Sources</i>	659
<i>Notes</i>	665
<i>Index</i>	783

©Sawai, Pradnyashaillee Bhagwan. *Location of Culture in Saul Bellow and I.B. Singer: A Comparative Statement on The Victim and Shosha*. Partridge, India: Partridge, 2015.

Contents

CHAPTER-I	1
A) The Meaning and Location of Culture	1
B) Holocaust	13
C) The Holocaust Literature	20
D) Orthodoxy	28
E) Anti Semitism	39
F) Assimilation	57
G) Problems and prospects	67
H) Reconstruction	69
I) Conclusion	73
CHAPTER-II	74
A) About the Author, Saul Bellow	74
B) Holocaust and The Victim	81
C) Cultural conflict	97
CHAPTER-III	120
A) About the author, Isaac Bashevis Singer	120
B) Isaac Bashevis Singer and the classical Yiddish Tradition	123
C) Outline of Shosha	134
D) Location of Culture in Shosha	138
E) The Kabbalic basis of Singer's secular vision	156
CHAPTER-IV	169
Conclusion	169
Bibliography	199

【協会活動報告】

2015年4月1日：『ニューズレター』第27号発行

9月10日：「大会案内」「理事会案内」発送

10月9日：理事会

27回大会（高槻市立生涯学習センター）

《プログラム》

総会

ベロー、エリスン共同シンポジウム

テーマ「ベローとエリスン—50年代思潮の中で」

司会・講師：町田哲司（関西外国語大学）「50年代思潮概観—順応と自己実現の狭間で」

講師：岩橋浩幸（近畿大学・非）「居場所を求めて—*The Adventures of Augie March*を中心に」

講師：伊達雅彦（尚美学園大学）「見えない人間を探して—ベローとエリスンの接点」

講師：松本昇氏（国士舘大学）「50年代のエリスン：『見えない人間』から読み解く」

講師：荒このみ氏（東京外国語大学名誉教授）「R・エリスンと *Integration*」
懇親会（於：中華菜館 桃莉 高槻店）

【東京支部活動報告】

2015年6月28日（於青山学院大学・青山キャンパス）

発表「Michael Chabon の *The Yiddish Policemen's Union* について」

12月6日（於青山学院大学・青山キャンパス）

発表「Art Spiegelman の *The Complete Maus* を読む」

2016年3月13日（於青山学院大学・青山キャンパス）

発表「Mercie Hershman の *Tales of the Master Race* を読む」

参加者：大場昌子(日本女子大学)、坂野明子(専修大学)、佐川和茂(青山学院大学)、伊達雅彦(尚美学園大学)

【2015年度会計報告】 (2015年4月1日～2016年3月31日)

収入の部	円	支出の部	円
前年度繰越金	49844	通信関係費	5172
会費	32410	大会・懇親会・理事会関係費	58876
懇親会費	48000	ホームページ関係費	24360
		アルバイト代	1000
		次年度繰越金	40846
合計	130254	合計	130254

2016年4月1日

会長 町田哲司 印

以上の報告に相違ありません。

会計監査 横山哲彌 印

【お問い合わせ先のご案内、および名簿記載事項の追加・削除等について】

現在のところ、ベロー協会では、事務局機能を本部の方に移し、一元管理ができるようにしております。

「お問い合わせ」および「名簿記載事項」の変更（特定項目の削除依頼含む）につきましては、machida@kansai.ac.jp までメールで、もしくは 573-1001 枚方市中宮東之町 16-1 関西外国語大学・町田研究室まで文書で、お願いいたします。

「名簿記載事項」の変更につきましては、「会費振込用紙」の「通信欄」をご利用いただいても構いません。通常、振込用紙では、お名前と入金額、入金日のみ確認いたしておりますので、何らかの変更のある方は、かならずその旨、通信欄にご記入くださいますようお願い申し上げます。

「ニューズレター」、「名簿」、「振込用紙」以外の発送物につきましては、経費削減のため、できるだけメールにて送らせていただいております。迅速な意見の交換にも役立ちますので、ぜひアドレスをお教えてください。名簿には、許可をいただいた方のみ掲載いたしております。

【役員】 (2015年4月1日～2017年3月31日)

理事：伊達 雅彦（北海道、東北地区／尚美学園大学）

坂野 明子（関東地区／専修大学）

大場 昌子（関東地区／日本女子大学）

佐川 和茂（関東地区／青山学院大学）

大工原 ちなみ（中部地区／富山大学）

鈴木元子（中部地区／静岡文化芸術大学）

片渕 悦久（関西地区／大阪大学）

町田 哲司 (関西地区/関西外国語大学)
渡辺 克昭 (関西地区/大阪大学)
橋本 賢二 (関西地区/大阪教育大学)
池田 肇子 (中・四国、九州地区/福岡女学院大学名誉教授)

会長：町田 哲司

代表理事：鈴木元子

名誉顧問：モリス・オーガスティン (AUGUSTINE, Morris J.)

半田 拓也 (福岡大学名誉教授)

会計監査：横山 哲彌 (大阪教育図書)

本部：関西外国語大学町田研究室内

【原稿募集】

本部では、ニューズレターに掲載する原稿を募集しております。ベロー研究に関係のあることでしたら何でも結構ですので、本部までお送りください。できれば、添付ファイルにてお願いいたします。

【日本ソール・ベロー協会会則】(2013年4月1日改正)

第1条 (名称) 本会は日本ソール・ベロー協会と称する。

第2条 (目的) 本会はソール・ベロー及び関連諸分野の研究と、会員相互の交流をはかることを目的とする。

第3条 (事業) 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1.総会の開催 2.調査・研究のための諸活動 3.調査・研究成果の刊行 4.会報(ニューズレター)の発行 5.研究発表会・講演会等の開催 6.その他、本会の目的達成に必要と認められる事業

第4条 (会員) 会員はソール・ベローの研究に関心を持ち、所定の年会費を納めたものとする。

第5条 (会費) 本会の年会費は2000円、ただし学生会員の場合は1500円とする。年会費未納者は、次年度より会員資格を失う。

第6条 (役員等) 本会に次の役員等を置き、会員の中から選出する。

1.会長、代表理事各1名。理事会が理事の中より候補者を推薦し、総会で承認を得る。

2.理事。各地区毎に若干名。構成員数に応じて増減。総会で選出する。

3.会計監査1名。総会で選出する。

4.その他、本会に必要なと思われる諸役については、適宜会員の中から総会の決議に基づいて会長がこれを委嘱する。

第7条 (役員任期) 役員任期は2年とし、再任を妨げない。

第8条 (事務局) 事務局機能は本部が担当する。

第9条 (経費) 本会の運営は会員の会費、寄付金、その他の収入をもって当てる。

第10条 (事業年度) 本会の事業年度及び会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終了する。

第 11 条（会則の変更等）本会の会則の変更、会費その他の重要な事項の決定は総会の議決による。

申し合わせ事項

(1)総会及び研究発表会は年一回開催する。

(2)本会の本部は、関西外国語大学 町田哲司研究室内に置く。

【会費納入のお願い】

2016 年度会費納入用の郵便振替用紙（日本ソール・ベロー協会：00940-5-109785）を同封いたしております。今年度は、少しややこしくなっておりますので、必ず下記をご確認ください。

振込用紙に金額を記入してある場合は、その額をお支払いください（2012 年に納入していた ISBS 会費を、昨年度まで SBSJ 前納分として処理させていただいていた方が対象となります）。

金額が未記入の場合、一般会員は 2000 円、学生会員は 1500 円となります。

SBSJ 会費として今年度分の全額をすでに納入された方については、用紙を同封いたしておりません。

年会費未納者は、次年度より会員資格を失いますので、ご注意ください。